

(様式2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築事業		路河川名等	(一)木曾福島(停)駒ヶ岳線					
事業毎の通番		11	市町村名	木曾町	箇所名(ふりがな)	伊谷(いや)				
事業概要	事業目的	当路線は、木曾福島駅と木曾駒ヶ岳を結ぶ一般県道であり、交差する(国)19号から木曾町中心地へのアクセス道路でもある。道路幅員が狭く車両のすれ違いが困難な箇所があるが、近隣には福島宿の町並みが残る上の段地区があることから、道路改良により観光周遊の活性化も期待できる。								
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法					
	関連する事業、計画等	なし								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 2,438台/日								
	着手年度	平成30年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	平成34年度	費用対効果	1.9	事業費(千円)	国庫	0	0	54,000	6,000
	全体事業内容(主な工種)	道路拡幅工 L=100m、W=5.5(7.0)m			60,000	0	0	54,000	6,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	交通事故の減少 災害に強い道路								
	間接的効果(定量的・定性的)	観光振興・地域の活性化								
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 2,438台/日 ○代替道路の有無 : 安全性の高い代替道路がある(国)19号) ○医療・福祉・教育施設との連携 : 木曾養護学校へのアクセス道路 ○交通結節点アクセス : JR木曾福島駅へのアクセス道路 ○観光振興・地域の活性化 : 福島宿へのアクセス道路						評価	A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : なし ○緊急輸送道路の路線指定 : なし ○地域指定 : 振興山村地域、過疎地域、積雪寒冷地域に指定されている						評価	C	
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.88 ○事業期間 : 5年間 ○工法等の比較検討 : コスト削減のための比較検討あり ○他事業との連携 : なし						評価	A	
	緊急性	○近年の交通事故件数 : 2件(H23:1件、H27:1件)(伊谷交差点) ○道路環境改善 : 朝夕の局部的減少を緩和する ○歩道整備 : なし ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 車道幅員3.5m						評価	B	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 沿道関係者を中心に周知(一部沿道関係者に意向確認)。 ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある。(H29に伊谷地区から要望書提出が出来る。) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : なし						評価	B	
所管課意見	事業の必要性、効率性が高いため、平成30年度から事業化したい。						採択状況	○	総合評価	B
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。									

位置図

写真

標準横断面

平面図

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は、木曾福島駅と木曾駒ヶ岳を結ぶ一般県道であり、交差する(国)19号から木曾町中心地へのアクセス道路でもある。道路幅員が狭く車両のすれ違いが困難な箇所があるが、近隣には福島宿の町並みが残る上の段地区があることから、道路改良により観光周遊の活性化も期待できる。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H29に伊谷地区から木曾建設事務所及び木曾町役場に改めて要望書が提出され、地域から強い要望がある。
③事業説明等の経緯	道路改良に影響が及ぶことが想定される一部沿道住民には事業化に向けて協力の意向確認を行っている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	地形の改変を最小限となるように配慮する。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により交通事故の軽減が図られ、通学通学時間帯の局部的減少の緩和や観光振興・地域の活性化が期待される。
⑦その他	

事業周辺環境

事業代表地点の緯度経度	北緯: N 137° 42' 19"
	東経: E 35° 50' 50"